

〔論文〕 見直される作業服の現状と提案

Discovering New Merits in Work Clothes the Present Situation and
the Proposition for Discovering New Merits in Working Clothes

福村 愛美

Manami Fukumura

1. 緒言

土木建設現場や工場などの作業場での労働は3K職場と言われ、若者にとってあまり魅力のない職場である。そのような職場のイメージアップを計るために、作業場のユニフォームを改善したら少しでも快適に働けるのではないかと考える。実際に“建設フェスタ”なども開かれ、作業服のファッションショーが行われ、作業服に対する関心も高くなってきている。今どのような作業服が若者に求められているかを考えるために、作業場などの職場のイメージや、作業服のイメージ、どのようなデザインの作業服が若者に好まれるかなどを調査した結果、作業場のような職場は、きつくて危険な職場であると考えられている。しかしこのような職場への女性進出は、職場が活気づくという点で有意義である。また作業服についてのイメージとしては、デザインが古くておしゃれではないと考えられている。色のイメージは灰色であるが、デザインと色を見て判断した場合には、青色が良く、素材は綿で、柄は無地が適していると考えられている。このような事柄が調査の単純集計結果から明らかになった。本研究では、これらの結果を踏まえて、理想的な作業服を考察するために作業場や作業服のイメージ、作業服のデザインについてのクロス集計を行い、 χ^2 値や \sqrt{Cr} 値などから、関連性を検討した。

2. 方法

調査は、1992年4月に、大分県立芸術文化短期大学に在学する満18才から21才までの学生270名を対象に行った。調査方法は、授業の始業または終了後に調査票を配布し、写真はモニターに写して見せて、その場で質問事項について記入してもらい回収した。有効回収数は263票で、回収率は97.4%である。調査内容は、土木建設現場などの職場についてどのようなイメージを持っているか、3Kと言われる職場でどのような点を改善したらイメージアップにつながるか、どのような作業服が理想的であるか、また現在企業が使用している作業服について、どのような作業服を着用してみたいと思うかなどである。調査項目は、土木建設現場や工場などの作業場での業務、労働に関してのイメージ（7項目、5段階評価）、作業服に対するイメージ（10項目、5段階評価）、作業服のデザインの写真に対する評価（5項目、5段階評価）、理想的な作業服についてなどである。分析方法は、調査データを項目ごとにクロス集計し、土木建設現場や工場などの職場のイメージや現業労働の作業服のイメージ、実際の作業服の評価などの各々の関連性を、集計結果をもとに明らかにした。

3. 結果と考察

調査データのクロス集計を行った結果、作業場のイメージについての質問間で比較的關係性が見られたのは、図1の作業場のイメージとしてきつい職場であるか、危険な職場であるかとのクロス集計結果で、きつい職場であると考えている人程、危険な職場であると考えている。図2は作業場のイメージが汚い職場であるか、危険な職場であるかとのクロス集計結果であるが、とても汚い職場であると思っている人の方が、危険な職場であるとして81.8%の人が考えている。また図3の作業場のイメージがきつい職場であるか、若手の労働者不足の原因はどのような理由であるかとのクロス集計結果では、きつい職場であるというイメージを持っている人程、若手の労働者不足の原因も汚いからとか、危険であるからというよりも、きつい職場だからという理由をあげている。図4は作業場のイメージが危険な職場であるか、若手の労働者不足の原因はどのような理由であるかとのクロス集計結果である。全体としては、きつい職場だからという理由が多いが、やはり危険であると考えている人は、労働者不足の原因としても危険であるという理由を、危険でないと思っている人よりも多くあげている。図5は作業場のイメージが汚い職場であるか、このような職場に女性も参加する事が有意義であるかとのクロス集計結果である。はっきりとし

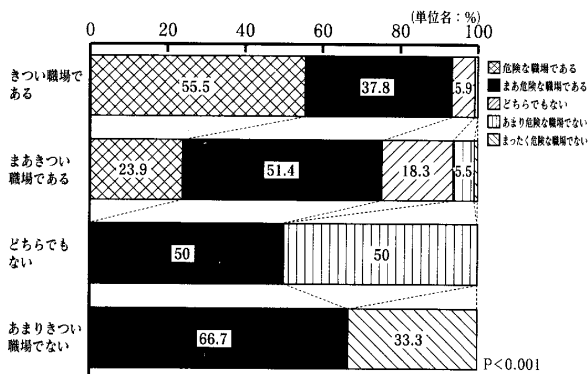


図1. 作業場のイメージとして、きつい職場であるかと危険な職場であるかとのクロス集計結果

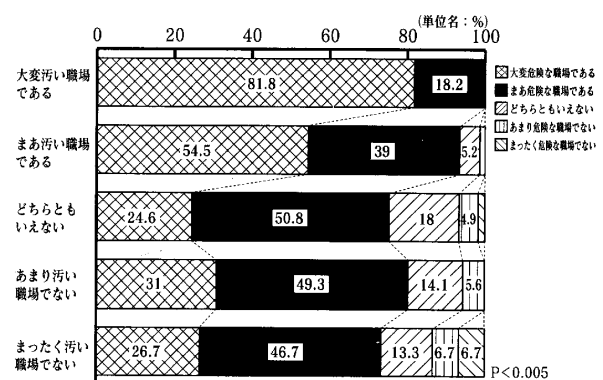


図2. 作業場のイメージとして、汚い職場であるかと危険な職場であるかとのクロス集計結果

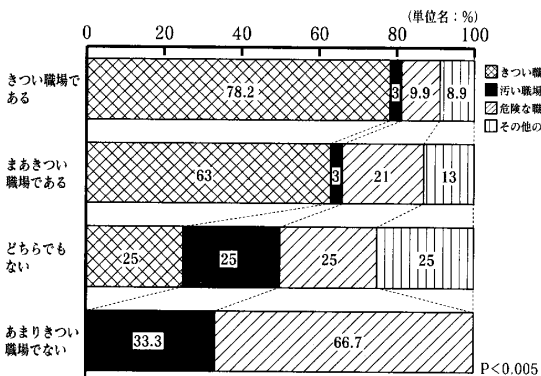


図3. 作業場のイメージが、きつい職場であるかと、若手の労働者不足の原因は何であるかとのクロス集計結果

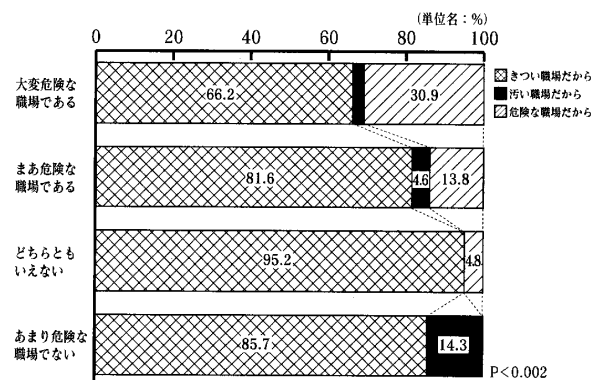
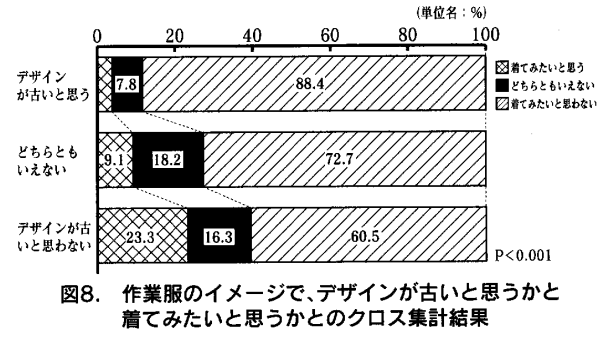
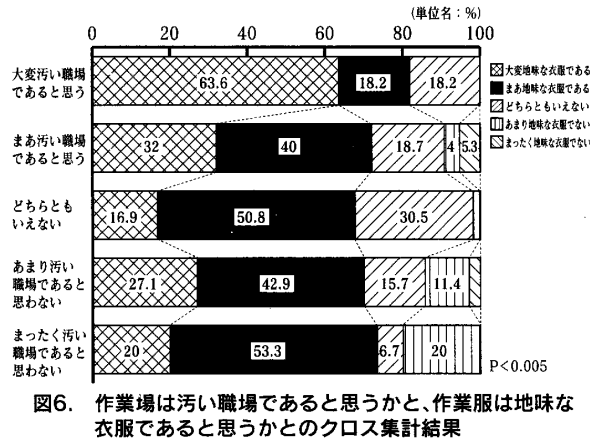
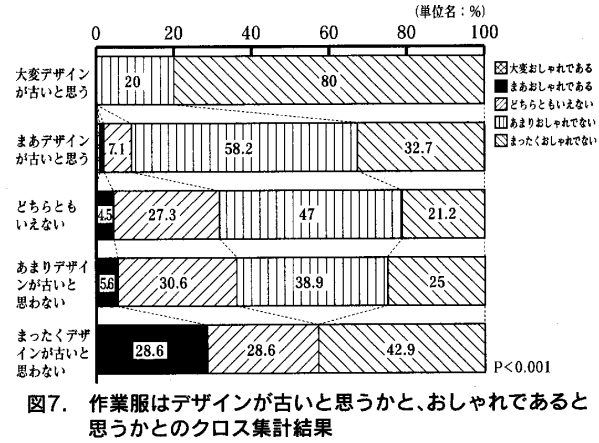
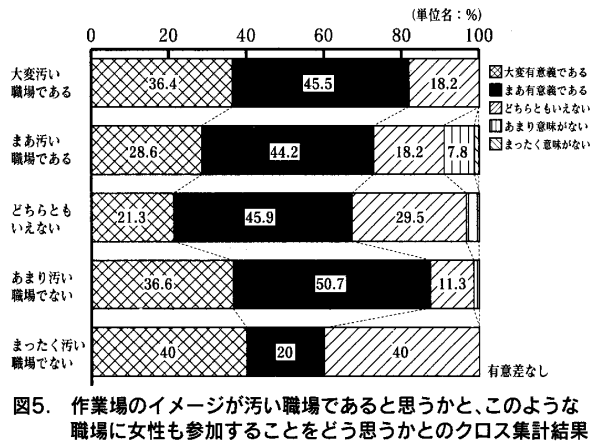


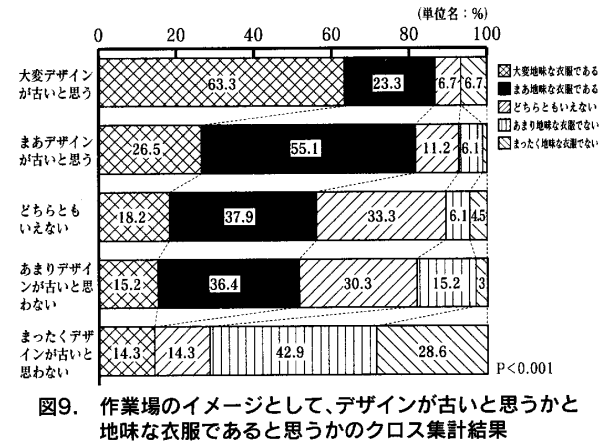
図4. 作業場のイメージが危険な職場であるかどうか、労働者不足の原因は何であるかとのクロス集計結果

見直される作業服の現状と提案



た傾向性はないが、大変汚いと思うとか、まったく汚いと思わないの方が、大変有意義であると考えている。

作業場のイメージについての質問と作業服についての質問間で関連性が見られたのは、図6の作業場を汚い職場であると思うかと、作業服は地味な衣服であると思うかとのクロス集計結果である。作業場のような職場をとっても汚い職場と考えている人は、作業服に関しても、とても地味な衣服であると63.6%と多くの人が考えている。このように答えた人は作業場や作業服に良い印象を持っていないと考えられる。また作業場を汚い職場であるともどちらとも言えないと答えた人は、作業服に関しても地味な衣服であるともどちらとも言えないと50.8%の人が答えている。このように答えた人は、作業場や作業服について関心があまりないと思われる。



作業服についての質問間で関連性が見られたのは、図7の作業服はデザインが古いと思うかと、おしゃれであると思うかとのクロス集計結果である。作業服は大変デザインが古いと思う人は、作業服はまったくおしゃれではないと、80%と多くの人が考えている。そしてデザイン

が古くはないと思う人程、おしゃれであると思う人が多くなっている。デザインが古いと認識している人は、おしゃれではないと思うのは当然である。逆にデザインが古くはないと思う人が、おしゃれであると考えているのも自然であると言える。図8は作業服のイメージでデザインが古いと思うかと、作業服を着てみたいと思うかとのクロス集計結果であるが、デザインが古いと思う人程、やはり着てみたいと思わない人が多い。少数意見ではあるが、デザインが古いと思わない人程、着てみたいと思う人も多くなっている。図9は作業服のイメージとしてデザインが古いと思うかと、地味な衣服であると思うかとのクロス集計結果であるが、デザインが古いと思う人程、地味な衣服であると考えている人が多い。図10は作業服はおしゃれであると思うかと、着てみたいと思うかとのクロス集計結果であるが、まったくおしゃれではないと思う人程、全然着てみたいと思わないと答えている。そしておしゃれであると思っている人程、着てみたいと思っている人が多くなっている。図11は作業服がおしゃれであるかどうかと動きやすいと思うかどうかとのクロス集計結果であるが、おしゃれではないと思う人程、動きやすすくないと考えている人が多い。図12は作業服はデザインが古いと思うかどうかと、作業服の素材は何が適しているかとのクロス集計結果であるが、一番下のグラフは、全体の人数の比率が2.8%と少ないので、傾向が違っているが、他のグラフは大体同傾向で、作業服は綿が適しているという結果となった。図13は作業服はおしゃれであると思うかと、地味な衣服であると思うかとのクロス集計結果であるが、おしゃれではないと思う人程、地味な衣服であると考えている。

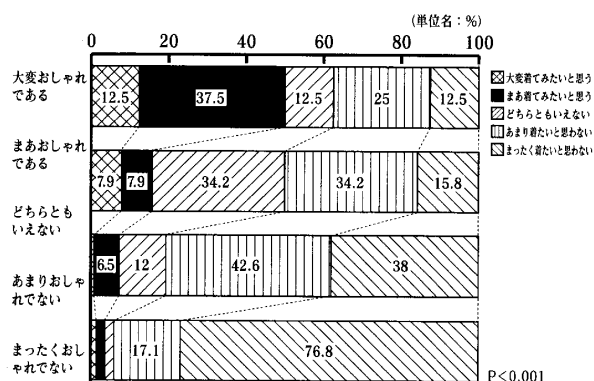


図10. 作業服はおしゃれであると思うかと、着てみたいと思うかとのクロス集計結果

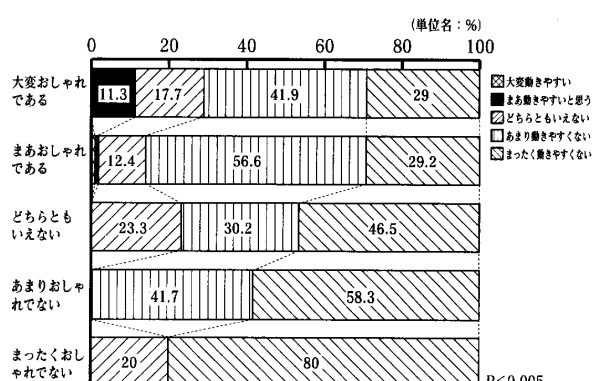


図11. 作業服がおしゃれであるかどうかと動きやすいと思うかどうかとのクロス集計結果

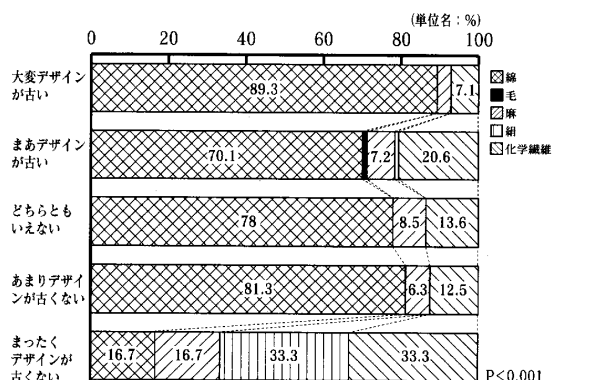


図12. 作業服はデザインが古いと思うかどうかと、作業服の素材は何が適しているかとのクロス集計結果

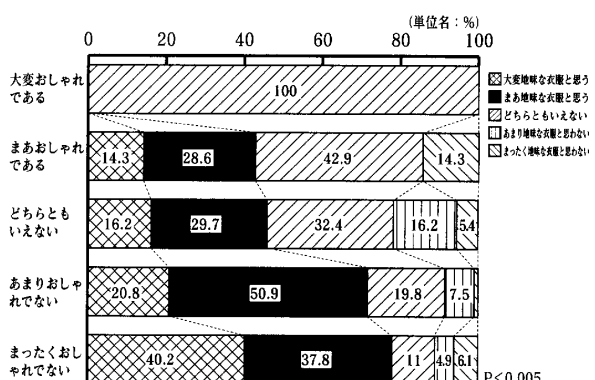


図13. 作業服はおしゃれであると思うかと、地味な衣服であると思うかとのクロス集計結果

見直される作業服の現状と提案

図14は作業服は動きやすいと思うかと、安全性が高いと思うかとのクロス集計結果であるが、作業服を動きやすいと思う人程、作業服は安全性が高いと考えている。そして動きやすいと思わない人は、安全性は高くないと考えている。図15は作業服は動きやすいと思うかと、着脱は簡単そうであると思うかとのクロス集計結果であるが、下2本のグラフは、人数の比率が全体の7.5%、2%と少ないので読み取りにくいですが、全体的には作業服は動きやすいと大多数の人が考えていて、大変動きやすいと思っている人程、作業服の着脱も簡単そうであると考えている。やはり作業服を動きやすい衣服だと思っている人は、着脱も簡単そうであると考えている。

図16と図17は、作業服のイメージと実際に作業服の写真を見た場合とのクロス集計結果であるが、同じ質問において関連性が高い結果となった。図16は作業服を着てみたいかという問いに対してで、図17は動きやすいと思うかについてである。どちらもイメージでも写真の場合でも同じ感想を持つ傾向が強いと言える。これは作業服のイメージと実際に見た場合の評価の差があまりないと考えられる。

今回の調査におけるクロス集計結果では、 χ^2 値や \sqrt{Cr} 値の高いクロス集計結果が少なく、作業場や現業労働のイメージと作業服のイメージとの関連性は低い結果となったが、作業場や現業労働のイメージについての質問間と、作業服についての質問間で、各々関連性が見られた。

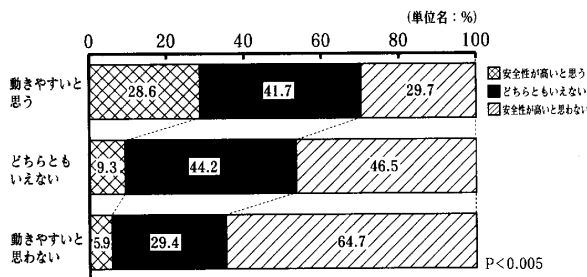


図14. 作業服は動きやすいと思うかと、安全性が高いと思うかとのクロス集計結果

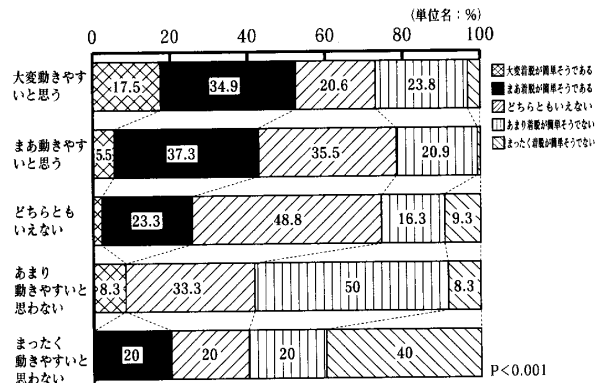


図15. 作業服は動きやすいと思うかと、着脱は簡単そうであると思うかとのクロス集計結果

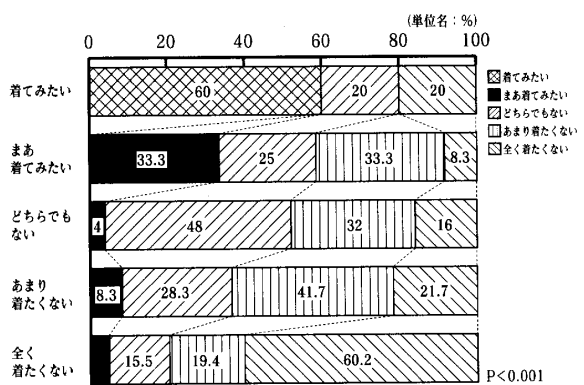


図16. 着てみたいかどうかという問いに対して、作業服のイメージでの場合と、写真を見た場合とのクロス集計結果

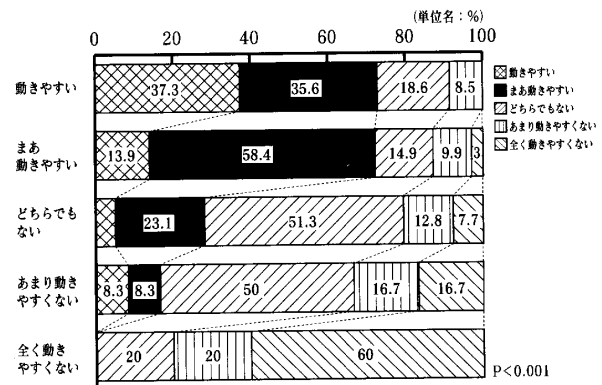


図17. 動きやすいと思うかどうかという問いに対して、作業服のイメージでの場合と、写真を見た場合とのクロス集計結果

4. 要約

土木建設業や工場などの作業場のイメージアップを計るために、作業場や作業服のイメージや作業服のデザインについて意識調査を行った結果、次のことが明らかになった。

- (1) 作業場のイメージについての質問間で関連性が見られたのは、作業場のイメージが汚い職場であると思うかと危険な職場であると思うかについてで、とても汚い職場であると思っている人の方が、危険な職場であると考えている。また作業場のイメージがきつい職場であると思うかと、若手の労働者不足の原因はどのような理由であると思うかについては、きつい職場であると考えている人程、理由も汚いからとか、危険であるからというよりも、きつい職場だからという理由をあげている。
- (2) 作業服についての質問間で関連性が見られたのは、作業服のデザインが古いと思うかや、おしゃれであると思うかと、着てみたいと思うかについてで、デザインが古いと思う程、またおしゃれではないと思う程、着てみたいと思わないと考えている。
- (3) 作業服のイメージと実際に作業服の写真を見た場合での評価で関連性が見られたのは、同じ質問において関連性が高い結果となった。特に着てみたいと思うかという問いや、動きやすいと思うかという問いについて関連性が高かった。これは作業服のイメージと実際に作業服の写真を見た場合との評価の差があまりないと言える。

参考文献

- 1) DAIRIKI,'92 SPRING&SUMMER COLLECTION (1992)
- 2) DAIRIKI,'91-92 AUTUMN&WINTER COLLECTION (1991)
- 3) Toyo uniform co., ltd. 1992 Spring&Summer Collection (1992)
- 4) 福村愛美、現業労働のユニフォームによるイメージアップについて、大分県立芸術文化短期大学研究紀要、第31巻 (1993)